

優秀賞

「友達」

長良小学校 六年 岡田 ななか

勉強が苦手な私

「一人」でもうれしかった

背が小さい私

大好きな友達

一人の男子 一人の女子に

大切な友達

他の人と比べられた

もし「友達」がいなかったら

悲しかった 悲しかった

ずっとずっと

相談しようと思ってもできなかった

変わらない おちこんだままだった

昼休み 一人おちこんでた「私」

「友達」がいるから

学校なんて行きたくない

今と昔の自分は変わった

でも 一人の友達が 寄り添ってくれた

あの「やさしい声」

言ってくれたのは 一言

私を支えてくれたこと

「大丈夫？」だった

大人になっても

けど その一言は いつもとちがった

いつまでも

「心配」という気持ちが

いつまでも

伝わってきた 聞こえてきた

わすれない

私を支えてくれるように感じた

「友達って いいな」

うれしかった

気持ちが楽になった